

産業殉職者慰霊の詩

鎮魂曲（虹）

詩 宗

左

近

いまわたくしたちの閉じている  
瞼の底の闇の奥から

いまわたくしたちの圧さえている  
言葉の下沈黙の深みから

ゆるやかに浮かびあがってくる  
花びらの渦巻き

ほほえみの波立ち

あなた

仕事着のあなた

陽の光に咲きでたあなたの顔の汗の

はじけた花びら

明るい笑いの仕事着のあなた

あなたはいつてしまった

見えないそよ風にのって大空に立ちのぼって  
ちぎれ雲を悲しみに青く染めて  
時間はどこまでも氷っている

もう夕焼けも赤赤と大空を燃え上らせない

湖の水のような冷たい明るさのなかに

取残されてわたくしたちはいま

氷柱となって立って祈る

いつてしまったあなたのほほえみの花びらよ

虹となれ

わたくしたちの瞼の底の闇の奥を

朝明けに芽ぶく地平の草花へときはなつ

わたくしたちの言葉の下沈黙の深みを

巣立つ小鳥のさえぎりへひらく

虹となれ

もう会うことのない別れの切なさを

切なさのままに鋭く光と化して

虹となれ

あなたのいつてしまったあの日の朝

かわしあつた唇の色と形のそのままの

虹となれ

ああ湖の水のような冷たい明るさのなかで

失われてゆくすべての温かみのなかで

ちぎれ雲の悲しみに遠く青く染まって

わたくしたち氷柱となって立って祈り続ける